

大津市民病院 地域医療連携室 だより 第2号



三澤 信一 院長

六年前に大津市民病院に赴任してすぐ気づいたこと

の一つが、優れた地域連携システムが構築されていることでした。大津方式といわれ、全国に知られた大津市医師会と市内公的三病院との特殊検査電話予約制度は昭和五十八年に始まったようです。その後電話からファックスになって情報の確実性が向上し、診療所の診察時間を考慮してファックスの受信は二十四時間可能になりました。当院は、平成十一年の新病棟開設時に地域医療課を、平成十四年には後方連携を担う療養相談室を開設して前方連携、後方連携の

充実を図ってきました。平成十五年には地域医療支援病院の承認を取りましたが、これにより病院施設の地域への開放と連携が進み、また共同して研修する機会が増えました。

今後、急性期病院の方向性は紹介患者の診療、救急患者の受け入れを中心に入院医療を充実し、慢性期の外来患者は地域への逆紹介が一層進められると考えています。どこの病院でも地域医療連携室の力が病院の将来を担っています。大津市民病院の地域医療連携室は院長直属で前方・側方・後方連携を担当します。辻村室長、松井次長以下のスタッフで一所懸命頑張りますので、地域の先生方のご支援とご指導をお願いいたします。



片岡 慶正 副院長

“結いの医療”

と難病センターの拡充を目指して頑張ります！

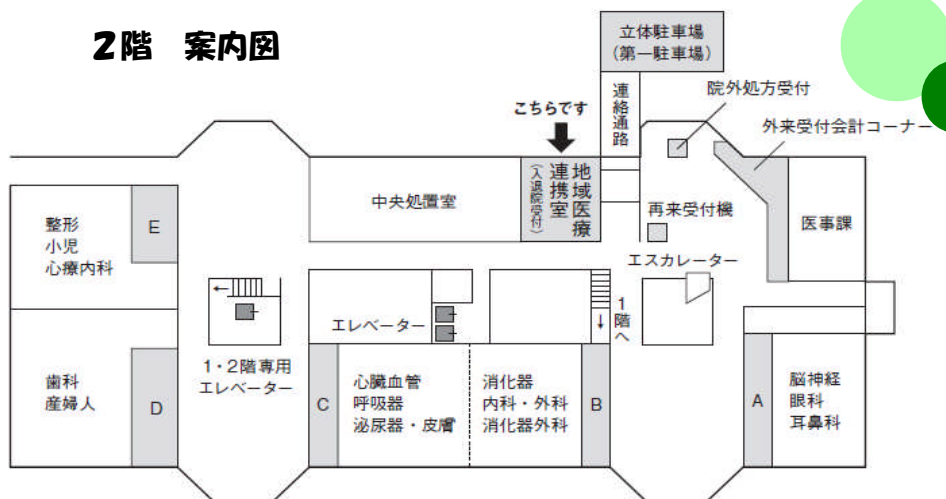
8月から以下の外来診察順番に変更させていただきます。

- 総合内科（新患外来）：毎週（火）
- 消化器難病外来（紹介および予約）：各週（月） 1・3・5週

現在、日本消化器病学会と厚生労働省研究班ワーキングGにおいて早期慢性膵炎の臨床診断基準および慢性膵炎診療ガイドラインの作成に携わっておりますが、一方では難治性の膵癌は待たなして年々増加の一途です。早期発見が全てですが、最近のEBMからも膵癌発症危険因子としての喫煙、飲酒、糖尿病の管理はもとより慢性膵炎の進展阻止も重要な発癌阻止対策として重要です。

長年、前任の大学では消化器難病（膵、腸）、難治性下痢、吸収不良症候群や炎症性腸疾患をはじめとする難病診療を専門としてきました。地域のご要望に少しでも応えられるように患者さまはもとより地域の先生方との結びつきと繋がりをさらに強めて“結いの診療”の実践に邁進したく存じます。よくわからんが、何かおかしい？何か潜んでいる？このような患者さまの手助けになれば幸いです。

2階 案内図



● 公開講座のご案内 ●

- 9月 7日(月)
心臓手術の周術期管理のヒント
- 9月15日(火)
私もOK! あなたもOK! のコミュニケーション
- 9月17日(木)
職場を活性化させるリーダーシップ